

公開質問

永井英慈

(都市アナリスト)

神奈川県 四大首長

神奈川県知事 黒岩 祐治

横浜市長 林 文字

川崎市長 阿部 孝夫

相模原市長 加山 俊夫

様

神奈川県四大首長の弛緩には只々驚愕と憤然と

「大阪の死闘を尻目に何をなされているのですか」

一、はじめに

申し上げるまでもなく、私たちの神奈川県は、県土は都道府県の中で狭い方から四番目で、人口は東京都に次いで九百万人を超える巨大な自治体であり、その上、横浜、川崎、相模原の三市もの政令指定都市がございします。

今や、神奈川県は首都東京に隣接して、その極めて恵まれた地理的位置にあつて、政治、経済、文化、教育、さらには風光明媚な自然環境の観光に至るまで、羨望的であると同時に憧憬的とも言えるほどの地の利を得ている大県でございします。

国際的な名声の港都横浜とともに、隣接の川崎は京浜工業地帯の中核都市であり、世界的にもその存在感は堂々たるものです。奇跡の高度経済成長の牽引的地帯の東海道メガロポリスの起点とも言えるわが神奈川県は明治以来の近現代化の中で誠に華々しい歴史を刻んでまいりました。豊かな経済力の裏支えを得て世界でも例を見ないほどの華やかさは、県民にとってかけがえない誇りでもございします。

でも、江戸開幕以来、実に四百年にも及ぶ統治権力の中枢に隣接して余り

にも恵まれてた幸せに酔い痴れて時代の変化に鈍感になって、その華やかな大都会の奥に潜む病理的な現象は、県民・市民が無自覚のままに、大都市のポテンシャルティー（潜在力）やポシビリティ（可能性）が萎えていると心底から憂慮しているのです。それに加えて、今や政令指定都市制度の致命的欠陥が益々増幅していると強い危機感を抱いております。私は神奈川県議時代から現行の政令指定制度には大きな疑問を持ち、強い問題意識をもって今日までほぼ四十年にも及びます。この度止むに止まれず、高令をも顧みず、このほど「政令指定都市の致命的欠陥」なる論稿をホームページに公開いたしました。一人でも多くの方々にご理解いただいて、貴重なご意見やご賛同をいただき、非力なのは十々承知の上で、改革に向けての気運を盛り上げようとしているところでございます。それこそ、神奈川の心意気と申せましよう。

既にご高承の通り、二つの指定都市を抱える関西圏の中心の大阪では、府と市が烈しく対立し、大都市のあり方「大阪都構想」を最大の争点として十一月二十七日の同日選挙に向けて激しい死闘の幕が切って下されました。このダブル選挙の帰趨によってこれからの日本の大都市自治制度、否地方自治制度は大きく左右されると徒ならぬ関心を寄せているのでございます。

その一方、首都圏の大県・神奈川県では、四大首長は不謹慎で、弛緩しきつて、救いようがない体たらくとしか言えない衝撃を受けたのでございます。この東西の落差というか格差は一体どうなっているのでしょうか。神奈川県は「地方の時代」を拓くトップランナーであった筈です。公憤抑え難き思いでペンを手にしているのでございます。

と申しますのは、去る十月十三日付の神奈川新聞によれば、その前日の十二日に、神奈川県知事と横浜、川崎、相模原の三指定都市の市長との共通のテーマで意見交換する「第37回県・横浜・川崎・相模原四首長懇談会」が県庁で開かれ、その様子が署名記事で報じられていました。ここで先ず、その記事をそのまま転載いたします。

注目された四トップの見解

「お酒やカラオケの楽しい話をして非常に和やかな霧囲気」。12日に県庁で開かれた県と政令市の4首長による懇談会。就任後初めて出席した黒岩祐治知事は冒頭でこう述べ、都構想をめぐる紛糾している大阪を引き合いに、県内首長の親密ぶりをアピールした。「大都市制度」に対する4トップの見解が注目されたが、県の方向を向いているときに県

り方を見直す話題は上からや市のあり方は問題にならない」と断言。林文子横浜市長は「知事は広域課題の仲介役という大切な役割」。阿部孝夫川崎市市長は大阪都構想を批判し「対立解消のために一つにまとめるような発想は神奈川からは出さない」と述べ、県市が役割分担しているとの認識を示した。

「大都市制度」言及なし

の仕組みや税源移譲など一重行政の解消に向けた研究を始めています。懇談会後の「神奈川」の活性化を目指して同じ

(香川 直幹)

県民・市民はどう思ったか？
〈神奈川と大阪の落差〉

この神奈川新聞の記事を一読し、川崎市民の一人として、神奈川県民として、また、日本国民として、なんとも遣り切れない、胸を締め付けられるような慨嘆の念に襲われました。とりわけ、神奈川県議のOB、国政に携った政界OBの私は悲憤慷慨の極みを禁じ得ませんでした。こんな激しい情念を抱いたことが、この年に至るまでにあっただろうか。

神奈川に移り住んで五十五年になり、正に晩節の域であります。この間、私は常に神奈川に限りない希望を持ち続け、先進的な自治体として不動の自信をもって、更には神奈川には限りない誇りと愛着を抱いて、極めて無器用ではありますが、県民として愚直に生きてきたつもりでございます。

こともあろうに、その、わが神奈川のご尊敬申し上げるべき筈の四大首長が揃っての、黒岩知事初めての会合で、四大首長の親密ぶりを殊更に誇示されたご様子でした。

「お酒やカラオケの楽しい話をして非常に和やかな霧囲気」と、冒頭黒岩知事はこう述べ、都構想をめぐる紛糾している大阪を引き合いに、県内首長の親密ぶりをアピールしたとのこと。でも、メディアの側からは当然大阪の凄まじいダブル選挙が頭にあって、極く自然に、当たり前前の形で「大都市制度」に対する四トップの見解が何らかの形で示されるものと期待していたにもかかわらず、県や市のあり方を見直す話題すら上がらなかった、このことです。それは一体どうしたことなのでしょう。強い疑問と衝撃を覚え

たのであります。

黒岩知事の当選後初の四トップの会合の記者会見ならば同じ指定都市を三市もかかえる本県であつてみれば他人ごとではありません。大阪秋の陣、と言うか、大阪都構想を強く意識して、四トップがそれぞれに分析したり、検証したりして白熱のやりとりがあつても不思議ではない、否、ない方が余りにおかしいと言わざるを得ないのです。はからずも神奈川の四トップの無責任と怠慢と鈍感を白日の下にさらけだした恰好になつてしまつたと申し上げなければならぬほどでございます。

敢えて付け加えれば、黒岩知事の前任者の松沢成文前知事は、現行の地方制度はすでに限界であり、道州制導入に極めて熱心で、「私は最後の神奈川県知事になつていい」と、公言していたのです。トップリーダーの認識や緊張感などの相違が如可に恐ろしいことを示す恰好の事例ともなつたことだけは確かなようでございます。

特に、この記事によれば、横浜、川崎、相模原の各都市は県（広域自治体）から独立を目指して研究している、とのことですが、そうだとすれば、尚更のこと都構想も含めて「新しい大都市制度」が、この席で具体的な話題にならなかつたことはどう理解したら良いのでありましょうか。今更、三市が独立に向けて研究していることは時代錯誤の怠慢と鈍感ではないでしょうか。これまでに県と三市は日々の行政執行の過程で問題点やら障害やらを十分過ぎる程に把握し、熟知し尽している筈ではないのでしょうか。それこそが行政実務の使命ではないでしょうか。

特に、川崎の阿部孝夫市長は旧自治省OBで、川崎の市長職をつとめて早くも十年にもなりますから、地方自治や指定都市行政については理論面でも実務面でもトップとして精通している筈です。阿部市長は大学を卒えてから、今日まで生涯を通じて地方自治で生きて来たプロ中のプロではないでしょうか。今更、その阿部市長が研究とは市民を愚弄しているとか考えられませんか。余りにも怠慢と存じます。

さらに、横浜市とて、昭和三十一年に指定都市制度が創設された時の五大都市で、半世紀以上もの指定都市行政の実績を積み、指定都市制度の利点も

旨味も矛盾も弊害も百も承知の筈なのではないでしょうか。指定都市制度は既に半世紀以上の歴史を経て、指定都市市長会も組織されて各都市から出向している職員は多数おり、神奈川の三市が今更研究などは背信的な怠慢ではないでしょうか。これでは行政不信の元凶だと思われかねないと存じます。

今時、内外の状況を直視すれば指定都市が都道府県からの独立を目ざすことなど、全く時代遅れの発想としか言えません。大阪のダブル選挙の最大の争点の実情からも指定都市制度は歴史的に役割を果たし終えていると断言します。長年の川崎市民、神奈川県民としての率直な実感なのです。

私は、かつて神奈川県議時代に指定都市制度について、県議会本会議で、時の長洲一二知事と論戦し、さらに、昭和六十年の月刊誌中央公論九月号に「指定都市は道府県から独立させよ」なる指定都市独立論を発表して、全国的にも大きな反響と共鳴をいただいたものでした。今や、言い知れない貴重な意見も多数寄せられて、懐かしい思い出となってしまいました。私としては今だに会心の提案だったと自信を深めてはおりますものの、あれから既に三十年近くの歳月が流れ、凄まじいグローバル化、ハイテク化、多様化に加えて地球温暖化と共に少子高齢化の複合変化が怒涛の如く押し寄せて、時代も社会も一変してしまいました。最早、指定都市独立論など通用する筈がありません。三市長はどのような視点から、どのような根拠で県からの独立を目ざしているのか理解できないのです。見方によれば、勉強不足、緊張感の欠如としか言えないのでございます。

日本のこれからの大都市は、機能不全の指定都市などに拘わることなく、「より広域に」「より大規模に」「より高度に」「より速く」凄まじいグローバル化にも対応できなければならぬと存じます。

同時に、広域自治体を構成する基礎自治体は人口規模は約四十万人を目処に、高い自治能力と強い政治的権能を付与しなければ、成熟した大国日本の将来は極めて危いものと存じます。

さらに、その基礎自治体の中に適正な地域自治組織（法定の）を創設して、住民の意欲を引き出して近隣地域社会（コミュニティ）を機能させ、住民自治や補完性の原則を存分に機能させて、住民の知恵やエネルギーを有効に発揮

させるメカニズムやシステムやモチベーションなどをしっかりと組み込まなければ、先進国・日本の地方自治などと誇れないと存じます。

今、私が右に述べた今日の自治の基本など地方自治の専門家でなくとも容易に理解いただけるものと存じます。明治二十二年から二十三年にかけて発足した日本の市町村制と都道府県制は、この百二十年ほどの歴史の激変の中で完全に役割を終えて時代の変化に対応できない状況です。

明治維新でも経済構造や地方制度を根本的に変革し、日本人の国民性と知的水準の高さに支えられて、この百二十年の奇跡の成功に繋がったものと考えています。時代の結節点の今、歴史に学ぶことはとても大切と存じます。

懇談会後の記者会見で、黒岩知事は「神奈川の活性化を目指して同じ方向を向いているときに県や市のあり方は問題にならない」と断言されました。この短いコメントで、知事の考え方や県政の方向性などの即断は慎まなければなりません。日本の大都市の実態や神奈川県のかかえる課題や実情などに関する認識が如何に軽率で思慮が浅いかを伺い知ることができるコメントではありません。長年、中央のマスコミの世界で脚光を浴びてご活躍された鋭のジャーナリストにしては首をかしげたくなる思いでございます。

また、林文字横浜市長は「知事は広域課題の仲介役という大切な役割」とのご発言ですが、知事職をトップリーダーではなく「仲介役」とのご認識でございませうか。県都・横浜の誇り高い指定都市の市長からすれば、「知事とはその程度」ということでしょうか、とその本音ぶりに失笑を禁じ得ないところでございます。

阿部孝夫川崎市長に至っては、都構想を批判して「対立解消のために一つにまとめるような発想は神奈川からは出てこない」と言い放ちました。先般阿部市長には、すでに公開質問状を出していますので、今更コメントなどする気にもなれませんが、阿部市長は大阪都構想の本質も命がけて死闘を闘い続けている選挙の本質というか核心が全く分っていない「能天気」な川崎市長と言うことを自ら証明したことは確かなようです。十年前に阿部市長を擁立したことの不明を川崎市民各位に心からお詫びしたい気持ちです。いずれ公開しますが、先の阿部市長への公開質問に対する返答の無責任と鈍感には呆れ返るばかりです。

これまで、神奈川の四トップの諸氏には、言葉が過ぎるほどの私見を申し上げましたが、それは、今日の内外の余りに厳し過ぎる、苛酷過ぎる背景があるからこそなのでございます。総じて、巨大自治体・神奈川をリードすべき四トップの恥ずるべき弛緩というか責任感、緊張感の欠如には堪え難いものを感じました。かつて、神奈川からは「地方の時代」を発信した輝かしい実績を思うと苦言がつい出てしまうものでございます。

とりわけ、去る三月十一日の巨大震災と福島第一原発事故による未曾有の苦難に日夜を分かたず、苦渋の時を送り、復興・復旧に向けて心身を鼓舞して「がんばろう日本」「がんばろう東北」と絆を確かめ合っている人々が数えきれないほど苦しんでいるのです。

既に、あれから八カ月も経ちましたが、先の内閣府の発表によれば未だ避難生活者は実に七万一千余人もおられる、とのことでした。

さらに、紀伊半島方面を襲った歴史的な豪雨で被災した大勢の方々に思いを寄せると、私は高令者なるが故か申し上げるべき言葉もございません。

加えて、TPPについては国論を二分して激論が入り乱れている実情に日本人として息の抜けない緊迫した国情を思うと、凄まじいグローバル社会の諸困難には溜め息が出る毎日でございます。なお、県政と国政に携わった者として国と地方の財政危機には身の毛がよだつ思いでございます。

世界に目を転ずれば、ギリシャ危機、ユーロ危機は世界の危機でもあると同時に日本を直撃しかねないと憂慮しているのでございます。

この様な内外の情勢にあって、大阪の死闘の真剣勝負を尻目に県内四トップの恒例の公式会合で、「お酒やカラオケの楽しい話をして非常に和やかな雰囲気」だったとのことでございます。親密ぶりに目くじらを立てることなど更々ございませんが、四トップの見識・認識が厳しく問われることは間違いないと存じます。

言葉が過ぎた向きにはどうぞ寛大なご諒恕のほどを衷心よりお願い申し上げます。他ならず、日本を思い、神奈川を愛するが故の真情を吐露申し上げます。おりますことを心から申し添えておる次第でございます。

二、公開質問状（神奈川からの発信のために）

- 1、現行の都道府県制、市町村制についてのご見解をお伺い申し上げます。
- 2、現行の政令指定都市制度についてのご見解をお伺い申し上げます。
- 3、同封の私の「政令指定都市の致命的欠陥」についてのご感想をお伺い申し上げます。
- 4、横浜、川崎、相模原の三市の指定都市があります本県の実態について率直にお伺い申し上げます。
- 5、三指定都市は広域での大都市自治体ですが、それは、そのまま巨大な基礎自治体であります。この巨大な基礎自治体で、真の市民自治や補完性の原則が有効に機能しているとお考えでしょうか、伺います。
- 6、凄まじいグローバル化の進む時代にあつて、広域自治体の機能や役割（守備範囲）について具体的にお伺い申し上げます。
- 7、地方制度調査会はすでに道州制の具体的な区画（区割）案を出していますが道州制についてのご見解をお伺い申し上げます。

三 終りに

このたびは、突然にもこの様な公開質問状を申し上げましたが、既に申し上げます通り、内外の緊迫した状況の中で、神奈川県内の四トップに、この際ぜひお伺い申し上げます、誠に不躰ながらご質問を申しあげました次第でございます。最後に本県の限り無い発展のために、どうぞ、地方自治のトップランナーとしての先導的で建設的なご見解、ご意見をお寄せ賜りますよう心から伏してお願い申し上げますとともにご健勝にて存分のご活躍を心からご期待申し上げます。

二〇一一年十一月二十五日